

人とともに 地域とともに 島根大学

*shimadai



[特集1] 様々な地域の課題に挑む!

地域で輝く島大生

vol. **51**
shimadai

2022.4

[特集2] 地域医療の最前線—医学部附属病院の今

日頃から専門的な研究や地域活動等で活躍する学生たち。コロナ禍で様々な活動が制限されている中でも、大学における専門分野の学びを活かし、それぞれのフィールドで主体的に活動する学生・団体を紹介します。

特集1

地域で輝く島大生



12/26~28に開催した教室の様子。大学生と小学生がペアになってクイズや問題に取り組みました。企画以外でも益田市の魅力や人々に触れ合う機会もあり、島大生にとっても益田市の魅力を知るきっかけになりました。



生物資源科学部
環境共生科学科 2年
森下 梨那 さん

自分の生き方をデザインする!

キャリアデザインプログラムは、島根大学で学ぶ専門分野を活かして、自身のキャリアをデザインする力を身につけるためのプログラムです。私は、大学生のうちに行動力や計画性を持ち、自分が興味を持つものにたくさん挑戦したいと思い、このプログラムに参加しました。



Case 2

益田市

苦手意識を払拭! 算数・数学パワーアップ教室

市教育委員会と連携して 理科科目の魅力を伝える

小中学生の中には理科科目に苦手意識を持つ子どもも多く、この苦手意識を取り除くことは大きな課題です。キャリアデザインプログラムの一環で、益田市教育委員会と連携し、益田市内の小中学生に理科科目の魅力伝えるプロジェクトに参加しました。

準備では、小学生と中学生2つの運営チームに分かれ、教育委員会の方にもサポートいただきながら授業を企画しました。今回は、算数や数学の力を使う必要があるクイズを解いたり、他の科目と数学が関連する問題に取り組みでもらいました。参加した小中学生は解くことができたという達成感や、周りの人と一緒に考えながら問題を解き進めていくうちに、少しずつ楽しさに気づいていくように見えました。

私自身この経験を通して、勉強に対して「教える」という新しい視点を持つことができたと同時に、教えることの難しさも学びました。問題を解く上でどのように誘導していくか、また、考えて解く力をどのように身につけてもらうかは、教える側も経験や実践を通して学んでいく必要があると気づきました。



株式会社なつかしの森が運営するラムネMILK堂松江店で訪問調査を行った際の様子。



内村さんが開発した焼き芋鉢。



自然科学研究科
農生命科学専攻 1年
内村 裕司 さん



収穫作業も体験。収穫の大変さや農家さんの様々な工夫を知ることができました。



飯南町役場において、内村さんが開発した焼き芋鉢の披露会も行いました。

Case 1

飯南町

飯南町産サツマイモの 販売方法の改良提案

焼き芋調理装置を開発 高糖度の焼き芋を手軽に

飯南町の豊かな土地で生産されるサツマイモは、ミネラル豊富で高糖度なのが特長です。私は飯南町の「株式会社なつかしの森」でインターシップを行い、同社が運営する店舗で調査を行った結果、壺焼き芋の製造には高濃度の一酸化炭素が発生すること、焼き上がりまでの時間や手間の労力が大きいことが分かりました。そこで、電気ヒーターを使用し、植木鉢を加工して焼き芋が調理できる装置(焼き芋鉢)の開発に取り組みました。販売可能なレベルの焼き芋を調理できるよう、温度や時間を変えて何本も調理し、糖度測定だけでなく食味試験も重ねました。試行錯誤を繰り返して、甘くて美味しい焼き芋が焼けた時はとてもうれしかったです。

普段研究で扱っている作物を、農家や企業の立場から販売促進するためにはどうすればよいかを考え、取り組めたことは貴重な経験になりました。ものを売ることの難しさを痛感すると同時に、自分で考え行動することの楽しさも知ることができました。

Vol.51 CONTENTS

[特集1]
地域で輝く島大生 01

[特集2]
医学部附属病院の今 05

[特集3]
JST事業「次世代研究者挑戦的研究プログラム」に採択 07

■留学生・留学体験紹介 09

■島根大学の研究・地域貢献事業紹介

①法文学部 岩本 崇 准教授 11

②総合理工学部 廣富 哲也 准教授 13

③生物資源科学部 深田 耕太郎 助教 15

■社会で活躍する卒業生 17

■たたら通信 19

■しまだい便り 21

■学生広報サポーター企画 23

■サークル紹介 24

■島根大学支援基金より 25

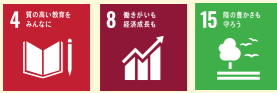
■読者プレゼント 25

企画・制作
株式会社メリット

デザイン
有限会社node

タイトルロゴデザイン
松陽印刷所デザイン室 森脇 祥吾

表紙/木次線プロジェクトでフィールドワークを行う学生たち
※感染防止に努めた上で、マスクなしで撮影を行っています。



24時間の行動を記録。野草や飼料、糞サンプルを採取しました。



傾斜地で放牧させるため、牛の足腰が頑健であることが特長。



知夫村の平木村長との面談の様子。



移動や食草時のエネルギー消費量を推定するため、牛にGPSと加速度センサーを取り付けます。



自然科学研究科
農生命科学専攻
農林生産学コース 2年
河路 大毅 さん

畜産農家では驚きの連続!

協力して頂いた農家さんは60頭以上の繁殖雌牛を飼養しているのですが、呼ぶと牛たちが寄ってくるように、とてもしっかりと管理されていて驚きました。毎日の健康チェックの際に良く通る声で「オオーイ」と叫ぶと、山上から牛たちが続々と下りてくる様子が印象的でした。



Case 4

隠岐・知夫村

若手農家支援を目的とした飼養管理マニュアル策定

放牧飼育のノウハウのマニュアル化を目指す

隠岐諸島では放牧を主体とした和牛の繁殖と肥育が盛んに行われ、畜産部門は島の産業でも非常に大きなウエイトを占めています。また、豊かな自然と多数の牛が放牧されている景観は観光資源としての役割も持っています。しかし、放牧飼育は牛の精密な栄養管理が難しく、長年の経験や知識が必要になります。今回の事業では、U・ターン等で新規就農した若手農家の支援を目的として、冬期に補給する飼料の給与量などを定めた飼養管理マニュアルの策定を目指しました。また、家畜の栄養を専門とする研究室として、知夫村役場の担当者の方や現地の農家さんとの意見交換を行いました。現地の農家さんとの交流は新鮮なことばかりで、牛によく話しかけて可愛がるという接し方のこだわりや、毎日の体調管理などの徹底した個体管理には特に驚きました。

元々は地元に戻り畜産農家や企業等に就職するつもりでしたが、その魅力に惹かれるようになり、現在は隠岐諸島での新規就農を目指しています。



Case 3

雲南市

若者の視点で魅力発信
き♡線おうえんプロジェクト



1~3.昨夏から秋にかけてのフィールドワークの様子。4.昨年12月には、フィールドワークを経て感じたこと、これからすべきことについて話し合ったことを沿線の方に伝える中間発表を行いました。



教育学部
特別支援教育専攻 3年
駿馬 香穂 さん

JR木次線のInstagramぜひ見てください!

Instagramは雲南市役所の職員さんと、JRさんと、私たち学生が共同で使っている公式アカウントです。タグ付けやハッシュタグ、リンクを貼る、動画の更新など試行錯誤しています!

JR木次線のInstagramはこちら!



現地を歩いて情報収集
発信方法にも工夫

私は雲南市出身で身近にJR木次線があったため、現地を知る大学生として、魅力の再発見や情報の発信で力になれたらと思います。雲南市役所のプロジェクトに参加しました。約半年をかけて木次線の雲南市内の各7駅を巡り、駅周辺の魅力を見つけるフィールドワークを重ねながら、収集した情報を分担して、Instagramで日々投稿しました。SNSで情報発信する際には、地域の方やファミリー層、鉄道マニアの方など、どのターゲットに届ける内容なのかを意識し、写真の選択や文章も工夫しました。

沿線には、地域の方々が大切にしていた小さな魅力や観光スポットがたくさんある一方、駅からの距離が遠く、二次交通の充実が必要であると思いました。課題を解決する手段として、魅力を学生に伝えるツールの作成や二次交通の地図や時刻表の作成など、気軽に木次線を利用してもらえるような仕掛けが必要だと考えています。

今回の経験を踏まえて、地域に寄り添いながらアイデアを提案する発信の柔軟さが大切であると学んだので、今後には活かしていきたいと思っています。



医学部 Acute Care Surgery 講座／高度外傷センター

最先端救急診療ユニット「ハイブリッドER」による
高度外傷診療の未来



ハイブリッドERの全景



ハイブリッドERでの緊急手術



ハイブリッドERでの緊急血管内治療

高度外傷センターでは、重症外傷及び重症救急診療を迅速かつ安全に行うため「ハイブリッドER」を設置しています。「ハイブリッドER」とは、救急初期診療室、CT室、手術室、血管造影室の4つの機能をもつ最先端救急診療ユニットで、国立大学病院では当院が初めて導入しました。これを使用することで患者来院から6分で緊急CT検査が始まり、10分までには損傷部位を特定してそのまま直ちに救命のための緊急手術や血管内治療を開始することができます。

交通事故などの重症外傷は時間との勝負です。このユニットでは直ちに診断と治療が開始できることから、従来救命に至らなかった重度の外傷患者さんの救命が期待されています。島根県の外傷死は他県と比較して急速に減少の傾向にあります。

高度脳卒中センター

山陰初の脳卒中ケアユニットが稼働しています



脳卒中ケアユニット



脳卒中ケアユニットスタッフ



ベッドサイドリハビリテーション

2021年10月から脳卒中の患者さんの入院治療を強化するため、山陰地方ではじめて脳卒中ケアユニットを開設しました。「脳卒中ケアユニット」は、脳卒中専門の集中治療室であり、高度脳卒中センターのメンバーが24時間対応し、専門看護とリハビリテーションにより患者さんの回復を促します。3床から開始しましたが、2022年4月からは6床に増床する予定です。

「脳卒中ケアユニット」は高度脳卒中センターの中核となり、多職種が連携した脳卒中診療と人材育成という役割が期待されます。熱いスタッフとともに脳卒中診療に励んでいます。

地域医療の最後の砦
救命医療体制の拡充

島根県は東西に長く、中山間地域や隠岐諸島を有するなどの地理的特徴のほか、高齢化率も高い(2020年10月1日現在で全国4位)という特徴を有しており、地域を支える医療がますます重要となっています。

島根大学医学部附属病院では、2020年度に456

件の医師派遣を県内の医療機関に行うなど、医師の地域偏在や診療科偏在を解消するための取り組みにより、地域医療を支えています。一方、大学病院は、先進的な医療を提供することが求められています。日々高度化する医療に対しては、大学病院の総合力を集約して発揮できるように、二つの職種あるいは診療科にこだわらない、横断的・柔軟な体制構築が重要です。

2016年4月に設置された高度外傷センターによって、不慮の事故や災害による外傷の治療体制を強化しており、島根県のドクターヘリや防災ヘリによる県内全域から重症の外傷患者を引き受けています。さらに、救命治療を迅速に行うため、消防署からの要請に応じて、医師が乗ったドクターカーを出動させ、救命率向上を目指しています。

高齢化の進展により患者の増加が見込まれるのが脳卒中です。この迅速な治療のため、2020年9月に高度脳卒中センターを開設し、専門医が交代で24時間、365日対応しています。2021年10月には、脳卒中ケアユニットを設置し、速やかな診断と的確な治療はもちろん、その後のリハビリテーションや療養、社会的サポートを視野に入れた体制としています。

そして、最も大切なのは、地域医療との調和です。先進的な治療を受けた後を支えるのは、地域での医療です。県外に行かず、地域で治療を完結できることを目指し、これからの地域に根ざす大学病院の果たすべき役割を真摯に考え、職員の力を結集して、島根の医療を守り、安全・安心で最善な医療を提供していきます。

VOICE



挑戦的で独創的な研究者を目指して

天然由来のフラビン化合物（ビタミンB2誘導体）を光触媒とする、環境にやさしい有機合成手法の開発を研究しています。常に最先端の研究を行うことで、従来の反応プロセスを一新するグリーンな反応の開発を行い、社会に貢献できることを目指して研究に取り組んでいます。このプロジェクトの育成生になったことで、異分野の研究者とも共同研究を行うことができるようになったほか、研究費の支給により、研究の充実や拡大が可能となりました。今後は共同研究を積極的に進め、幅広い知識を身につけながら挑戦的で独創的な研究を行ってまいります。

自然科学研究科
博士後期課程 創成理工学専攻
自然環境システム科学コース 2年
岡 真里奈さん



島根県の膵臓がん患者さんに役立つために

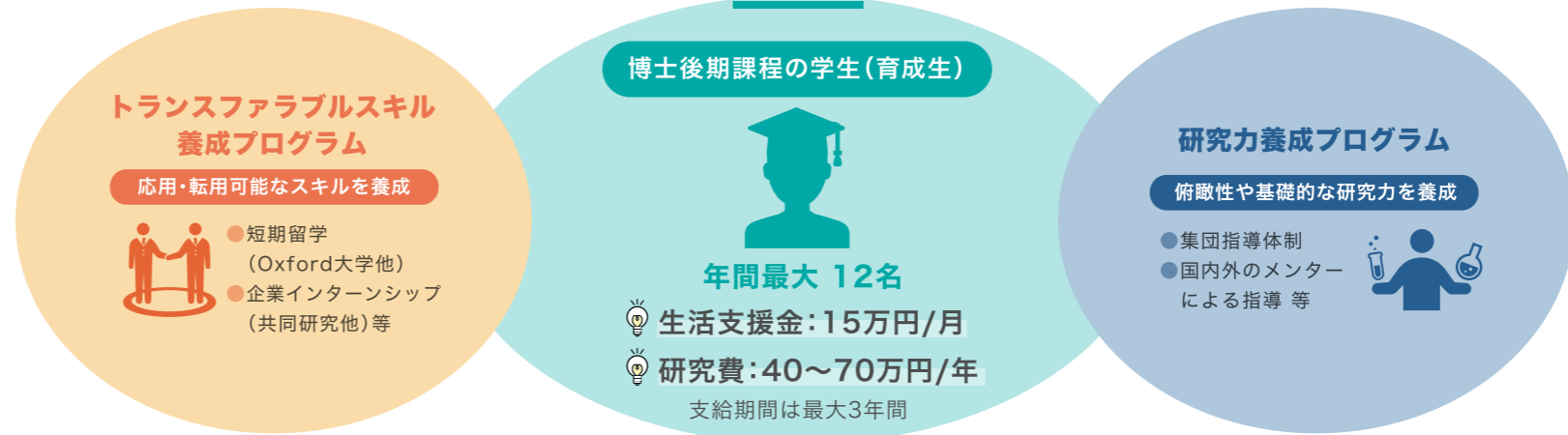
膵臓がんは、従来の抗がん治療に対して非常に耐性があるうえ、高齢者に発症する傾向があるため、島根県では膵臓がんの発生頻度が比較的高くなっています。そこで膵臓がんをテーマにペメトレキセドという抗がん剤に焦点を当てた研究を行っています。このプロジェクトを通じて様々な経験を共有することができるほか、様々なキャリア開発トレーニングも受けることができます。今後、日本で就職できるような文化や言語に慣れるよう頑張っていますが、自分の興味や能力、専門知識を生かして、免疫学やがん研究を進展させ、科学を通じた社会への貢献を目指したいです。

医学系研究科 博士課程
(バングラデシュ出身)
ホック・マハド・マーブールさん



地域の産業や社会の発展に貢献

▶他者と能力や、▶産学官 協働し、広い視野を持って様々な現場で課題を解決する対応 研究成果を社会問題解決のために応用・展開できる人材育成 連携による様々なキャリア支援



目指しています。
令和3年度は、自然科学研究科 5名、総合理工学研究科4名、医学系研究科3名の計12名の学生を選抜しました。環境にやさしい有機合成手法の開発や、がんの予防・治療薬における研究など、地域や日本の課題解決に資する最先端の

研究を支援しています。
5年にわたるプロジェクトにより、博士後期課程への進学を促進するとともに、日本の持続的な社会の構築に向けて、俯瞰的視野から様々な問題を解決するため、先導的な研究や取組を創生できる博士人材の育成を進めていきます。

島根大学では、優秀な博士人材を支援・育成するため「持続可能な社会構築に向けた島根大学高度人材育成プロジェクト」を実施しています。
地域の産業や社会の発展に貢献する人材を育成
大学院博士後期課程の学生は、我が国の科学技術・イノベーションの将来を担う存在ですが、近年、博士後期課程に進学する学生が減少傾向にあります。その原因として、日本では海外の大学に比べて、博士後期課程の学生に対する経済的支援が弱いことが指摘されてきました。この課題を解決するため、そして我が国の科学技術水準を向上させるために求められているのが、優秀な学生を支援・育成

することです。
本プロジェクトは、国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）が公募した「次世代研究者挑戦的研究プログラム」の事業として採択されたもので、令和3年度から始まりました。
博士後期課程の学生の中から、優秀な学生を育成生として選抜し、経済的支援（年間180万円）と研究費（年間40〜70万円）の支援を行うほか、多様なキャリアパス支援を行います。
既存の枠組みを超えて博士後期課程学生の自由で挑戦的・融合的な研究を支援することで、本学が強みとする医理工農学分野を広く横断的に捉え、地域の課題解決を軸として、持続可能な社会構築に向けて挑戦する人材育成を

博士課程の学生を支援・育成するプロジェクトが始動
JST事業「次世代研究者挑戦的研究プログラム」に採択





留学生・留学体験紹介



FROM



出身国

アルジェリア

マクレルーフイ・ケイラ

Makreloufi Kheira さん

(自然科学研究科 博士前期課程 2年)



1.研究室の日本人学生と一緒に。みんな夜遅くまで研究室で勉強しているそうです。2.国際センターの青先生宅にて。地域の子供たちと一緒に映画の撮影に参加しました。

「グローバルイシュー実践海外研修」に参加

オンラインでの受講風景



オンライン研修

カンボジア

ふくま りん けいこ

福万 結子さん

(生物資源科学部 環境共生科学科 2年)



**周囲の手厚いサポートに感謝
今後はもっと交流を深めたい**

日本語は独学で、日本のドラマを見たり、日本人アーティストの曲を聞き、歌詞を覚えたりして学びました。大学卒業後、仕事をしながらお金をため、いつか日本に行きたいと思っていた時に奨学金制度の存在を知り、念願だった日本への留学が叶いました。

現在はジャスミン茶の成分について研究しています。お茶に含まれる成分それぞれに、どのような効果があるのか実験を繰り返しています。研究室の学生はもちろん、先生方もとても丁寧にサポートしてくれます。学生の意欲を後押ししてくれる環境は、母国ではなかったことなので本当に満足しています。日本に来たらいろいろな人と交流したいと思っていましたが、コロナ禍でなかなか実現できていません。少しでも状況が改善すれば、いろいろな場所に出かけて交流したいと思っています。

**新たな気づきと貴重な出会いがたくさん！
自己表現力の向上を実感できた**

2月7日〜16日までの8日間、カンボジアのNPO法人SALASUSUの研修に参加しました。留学の経験はありませんでしたが、多くの人とのディスカッションを通じて多様な意見に触れ、自分の内面を表現する力をも身につけたいと考え、参加を決めました。また、資料やネットから得た知識ではなく、生の情報を知ること、固定観念をこわしたいとの想いもありました。

グローバルイシュー 実践海外研修(カンボジア)とは？

カンボジアの女性支援を行うNPO法人SALASUSUと連携した研修です。カンボジアとオンラインで繋いで開発途上国の援助の現場や体験を聞き、異なる価値観を持つ社会の中で積極的に行動する力や判断力やコミュニケーション力を養い、国際社会が抱える課題に対する解決への基礎能力を身に付けることを目的としています。昨年に続きオンラインで実施され、15名の学生が参加しました。

のディスカッションで自己表現力が上がったと実感できました。最終日には初日から考えられないような積極性と一体性が感じられ、研修が終わるのがとても寂しく感じました。「無知の知(知らないことを自覚すること)」の大切さを知り、そこから好奇心を持って、素直に質問したり、疑問を持って考えたりすることができた研修になりました。

留学生と地域との つながりこの1年

島根大学国際センター長
青晴海

2021年度はコロナ禍ではありましたが、留学生と地域の方々とのつながりがさらに深まった1年となりました。

留学生を中心に結成されたクリケットチームは、毎月地域の方々との交流会や小学校での練習会を開催しています。また、留学生と地域住民による空き家の整備など、地域の課題への取り組みも始まっています。

このような活動を通じ、地域をより深く知ること、留学生がここに住みたいと感じ、地域で仕事を探すきっかけとなることも期待しています。

今後も、島根大学と地域のグローバル化の推進に努めてまいります。

国際センターHP
はこちら。



三角縁神獣鏡を分析し、 古墳時代社会から 国家の成立過程を探る

墓と副葬品が示す
古代山陰文化の特徴

日本で本格的に水田耕作が始まった弥生時代、連携や争いを経て多くの集落が形成されました。これに続くのが、3世紀中頃から7世紀頃とされる古墳時代です。「いくつもの地域社会に分かれていた弥生時代と比べ、日本全域をほぼ覆う枠組みができました」と岩本准教授。中央政権と地方との恒常的な関係が形成されていく過程をひも解く中で、大きなポイントになるのが前方後円墳です。「かつては各地に様々な墓があり、大きな墓は作られませんでした。しかし古墳時代には、前方後円墳という形式の墓が日本列島中で造られました。大きな墓を作ること

地域社会の結合を確認する。有力者を葬る時には前方後円墳という形を用いる―そういう共通認識が全国的に浸透していたと考えられます」。

そんな中二線を画しているのが山陰地方です。3世紀中頃に西日本のほとんどの地域で造られた前方後円墳ですが、山陰に登場するのは4世紀初め頃。鳥取県南部町の浅井11号墳が、山陰最古だと考えられています。ただ、山陰にも3世紀から各地と共通するものがあります。副葬品の三角縁神獣鏡です。墓の形は他の地域に倣わなかったものの、鏡を入手して保有するという意味は、早期に受け入れたのです。

「山陰は、弥生時代から大きな方墳を造っていた地域。新しさより伝統を重視したのでしょう。一方、王権に認められた格付けの証ともされるアイテム―三角縁神獣鏡は、各地と同時期に取り入れられました」。例えば安来市の大成古墳や造山古墳は、全国的に、前方後円墳ブーム、真つ只中に造られたにも関わらず、国内最大級の方墳。しかし、いずれからも三角縁神獣鏡が発掘されています。「考古学のフィールドは近畿と

前方後円墳を始め、円墳や方墳など、日本各地で十数万基もの古墳が造られた古墳時代。社会文化学部の岩本准教授は、現代の日本につながる国家の原型ができたターニングポイントととらえ、当時の社会実態を研究しています。特に注目しているのが、有力者層が古墳に多数副葬した銅鏡です。



PROFILE

法文学部 社会文化学科
岩本 崇 准教授
いわもと たかし

大学では英語を学ぶつもりが、縁あって考古学研究室へ。友人と出向いた銅鏡の企画展で、迫力に圧倒されて関心が深まりました。兵庫県の茶すり山古墳での調査では、自ら銅鏡を発掘したことも。現場でしか得られないものも多い発掘調査は、考古学の基本ですね。

九州が中心ですが、いずれとも距離がある山陰には、独特な文化が存在するのです」。

埋葬方法や石材にも
独自のこだわり反映

岩本准教授は、埋葬方法の違いにも着目します。「近畿では、くり抜いた石の中に遺体を納める密閉性の高い棺を用いますが、山陰の棺は、内部が一部外から見えるような形式です。死んだ妻イザナミと、夫イザナギとのやり取りを描いた黄泉の国神話も、出雲だから成り立つのです」。棺を密閉しない出雲では、石室の屋根も高め。「千年以上前のものづくりにも、地域の意識が反映されています」。

現在、総合理工学部の亀井淳志教授と、石材の原産地を同定する共同研究を実施。大橋川周辺では、近隣に石があるにも関わらず、安来や来待など遠方の石が使われていたことなどが分かりました。「地域社会をコントロールする有力者がいたことが分かります。未解明事項も多く、奥深いのも考古学の魅力ですね」。



1. 安来市久白町にある矢田古墳群の横穴墓。近畿と異なり中を見せる形式の石棺となっている。2. 雲南市加茂町の神原神社古墳から出土した三角縁神獣鏡。3. 鏡の断面を実測する岩本准教授。4. 発掘調査の様子。報告書だけでは分からない、現場だからこそ得られる情報があるという岩本准教授。学生たちには積極的に現場に出よう伝えています。



制御システムを備えた 歩行車の研究開発で 高齢者の移動を支援



1

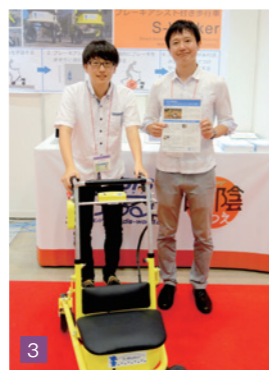


2

1・2. 廣富研究室で開発した、ブレーキアシスト付き歩行車「S-Walker」。歩行者との距離、歩行速度をセンサにより計測し、一人一人の歩き方に合わせたブレーキをかけるアシスト機能を備える。3. 令和元年8月にくにびきメッセで開催された「DISわぁんど in 山陰 まつえ」に出展し、ブレーキアシスト歩行車をPR。4. 前腕支持タイプの歩行車。



4



3

一人一人に合わせた
ブレーキアシスト

元々、ソフトウェアを活用した高齢者や障がい者のコミュニケーション支援を進めてきた廣富准教授。ハード面で生活を支える道具として着目したのが、移動を補助する歩行車でした。「街中を見ると歩行車を使っている高齢者が多い一方、転倒事故も少なくないと聞きました。歩行に合わせた制御システムを備えれば、安全性が高まるのでは、と考えたのです」。計測制御などに詳しい同僚らと共同研究をスタート、歩行車を使う高齢者の動作を調査し始めました。まず廣富准教授自ら、高齢者の疑似体験スーツを着用して歩

行車を操作し、モーションキャプチャなどを使って動作のデジタルデータ化を実現。歩行車の速度が速くなった時や、体が歩行車から一定程度離れた時に転倒しやすくなることなどが分かりました。データを基に試作品を作ると、松江市内の高齢者福祉施設利用者ら、60歳代から90歳代までの約30人に協力を依頼。歩き方や、坂道でのブレーキの掛け方などにも個人差があり、同じ状況下でも使う人によって危険性が異なる点などが判明しました。「早足で利用する人に対し、やみくもにブレーキをかけては外出意欲を衰退させることにもなります。使う人に合わせたブレーキ制御システムが必要だと痛感しました」。

デザイン性もこだわり
今年中の商品化を目指す

出雲市内の福祉機器メーカーと共同して改良を重ね、2019年に完成したのが、歩行車との距離と歩行速度をセンサで計測し、一人一人の歩き方に合わせてブレーキをかける歩行車「S-Walker」です。数十メートルの使用で、コン



「歩くことは、人にとって重要な動作の一つです。しかし、けがや病気、加齢などで体力が低下すると、ふらつきたりつまづきやすくなり、思わぬ事故につながることもあります。知能情報デザイン学科の廣富准教授は、高齢者の安全な歩行を支援する補助具を開発、今年中の商品化を目指しています」。



PROFILE

総合理工学部 知能情報デザイン学科
廣富 哲也 准教授
ひろとみ てつや

大学院生の時、特別支援学校の依頼で、脳性まひの子どものコミュニケーションを助けるソフトを作りました。一つの文を伝えるのに20分かかっていた子が、わずか1分でできるようになりました。コンピュータには、人の生活を変える力もあるんだと感動した記憶があります。

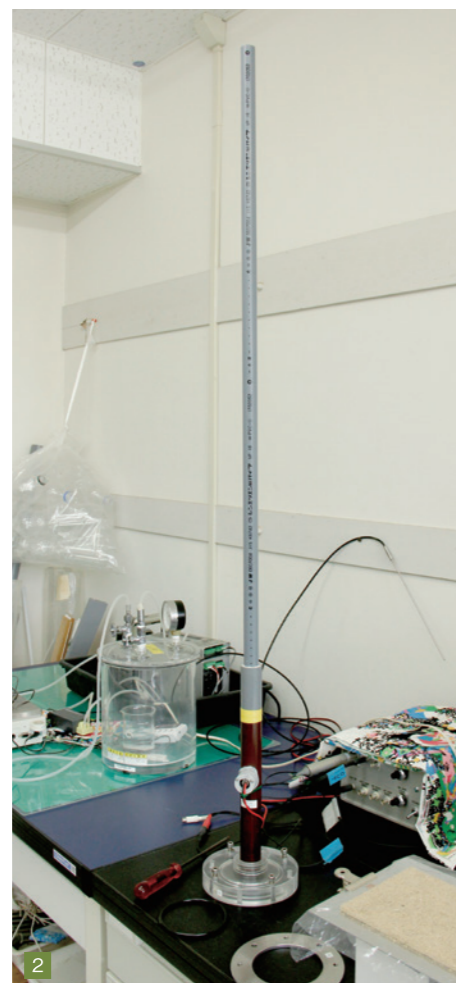
ピューターが使用者の歩行やブレーキ制御の特性を学習し、記憶したデータより速度や距離が大幅に変化した時には、本人に注意喚起したり、コールセンターなどに連絡したりするシステムも備えました。「協力してくれた高齢者からは、『行動範囲が広がる』『安心して散歩できる』との声も頂きました」。昨夏には、上半身を車に預けた形で歩行できる前腕支持タイプも完成。「福祉用具は使ってもらってこそ価値があります。格好良さやデザインにもこだわりました」。既に特許や実用新案は取得済みで、今年中の商品化を目指しているそうです。

現在、認知機能が衰えた高齢者のコミュニケーションを支援するアプリや、排泄介護をフォローするシステムなども開発中です。「身体の状態や性格、癖などは一人一人異なります。個々に応じたシステム開発を試みることは、研究者としての知的興味を駆り立てられますし、結果として使う人の助けになれば、と思っ研究を続けています」。一人一人の特性に合わせたデジタル技術の活用は、今後私たちの暮らしをあらゆる場面で豊かにしてくれそうです。

音波を使って土壌の 排水性や通気性を測定 農業振興への活用狙う

土に音を響かせて
通気性や排水性を調査

pHや養分などの「化学性」、微生物や有機物の量やバランスである「生物性」、そして「物理性」の3要素がバランスよく保たれている土は、作物が育ちやすいと言われています。中でも、「物理性」である通気性や排水性が損なわれると、酸素が土中に供給されないため、植物の根が窒息して根腐れが起きやすくなる原因となります。「たとえば、畑の場合は水はけが悪すぎると湿害を受けますが、田んぼは水を貯めて稲を育てるため、畑の土よりも保水性が求められます。この保水性に応じて、水を供給する時期や量を計画する



1. 学内にある実験室で、土の上に配置したパイプに様々な周波数の音波を流す実験をおこなっている深田助教。2. 音波を使って土壌の性質を調べる装置。パイプの下部にはスピーカーがついている。3. 年5回程度行っている大学開放授業「みりのりの小道」の様子。農作業やものづくり体験を通じて、市民との交流も行っている。催しの様子は深田助教のYouTubeチャンネルでも公開中。

YouTube
チャンネルは
こちらから▶



必要があります」と深田助教。「用途によって土壌に求められる性質は異なりますが、土の情報を知ることは非常に重要です」と続けます。土中に水や空気がどれくらい、どのような状態で存在しているのか。それを調べるために深田助教が用いているのが、音波です。従来の調査方式では、土を入れた円筒の容器の中に水を入れ、水が染み込んでいくスピードから排水性や透水性を調べます。深田助教は、対象物の形や機能を損なうことなく調べることができる音波化ビニル製のパイプを近づけ、そのパイプに向かってスピーカーで音を響かせます。「音はパイプ内の空気と共鳴しますが、周波数によって共鳴の仕方が変わり、同じ周波数でも土中の水分量によって共鳴する音の大きさが変わります」。音の正体は空気の振動です。土に音を響かせることで、土の中に含まれている空気の量と、振動しやすさ(通気性)を測定できることが分かったのです。「音波であれば、土の表面を全く乱さずに測定できますし、長時間継続して測り続けることもできます。一つの試料で複数の試験を行うこともで



作物を育てる基礎となる土壌。その土づくりに重要な要素の一つが、排水性や通気性など水や空気の移動に大きく関係する「土の物理性」です。物理性を向上・維持するためには、まず土の構造を理解しなければいけません。環境共生科学科の深田耕太郎助教は、音波を使って土壌の物理性を研究しています。



PROFILE

生物資源科学部 環境共生科学科
深田 耕太郎 助教
ふかだ こうたろう

出身は山口県ですが、父方の祖父が安来市内で農業をしていたこともあって、いつの間にか関係する学問に興味を抱いたような気がします。小さい頃は畑で焼き芋を食べたり、コンバインに乗ったりしたことも。研究結果がいつか農業に貢献できればと思っています。

きるのです」。

様々なアイデアを生かし
土壌の物理性を探る

土壌の状態は、作物の生育に大きく影響します。深田助教は、排水が課題となる水田で鳥根和牛を放牧する可能性や、土壌改良剤としてよく用いられる堆肥がもたらす保水効果などについての共同研究も実施。「水田放牧の場合、田んぼそのものの排水性の改良に加え、周辺に山があればそこから流れ込んでくる水も阻止する必要がありそうです。正確な水分量を測定することで、大がかりな工事をせずに水田を活用できる可能性を提案することもできます」。土の物理性に強い関心がある深田助教は、音波だけでなく、電気を蓄えることができるコンデンサを活用して、土の水分状態を調べることも挑戦。「土はものを育てる上で非常に重要なもの。今まで使われていなかったアイデアを導入して、土壌と物理学の関係をより豊かにしたいですね。最終的には研究成果が汎用的な技術となって農業などに生かされればと、思います」。

社会で活躍する卒業生

A graduate of Shimane University

No. 14

研究員



卒業後も様々な分野で活躍する島大OB・OG。その中から、山陰をフィールドに活躍する注目の人を紹介するシリーズ企画です。今回は日本コルマー株式会社の出雲研究所で勤務する西尾さんに、現在の仕事内容やそこに至るまでの道のり、今後の展望についてうかがいました。

Profile 西尾 春香 さん

日本コルマー株式会社
研究開発本部 出雲研究所

島根県松江市出身。2020年3月に大学院自然科学研究科 環境システム科学専攻物質化学コースを修了。2020年4月に日本コルマー株式会社へ入社。インターンシップを通じて同社の魅力に触れ、入社を決意。入社時より出雲研究所で化粧品開発を担当している。

お客さまの希望をもとに原料選択や配合を調整化粧品を作りあげる

「化粧品OEM」をご存知でしょうか。化粧品受託製造とも言われており、依頼を受けて相手先ブランドの化粧品を製造することです。この化粧品OEM業界でナンバーワンのシェアをほこる「日本コルマー株式会社」の出雲研究所に勤務するのが西尾さんです。依頼は日本全国から。依頼主が希望する化粧品を開発し、製品化するまでの一連の工程を出雲研究所で請け負っていますが、西尾さんが担当しているのは化粧品の中身を作る開発業務です。どのような使用感のものを希望されているのか、どのようなターゲットに向けてのものなのか、まずは依頼主の希望をヒアリングします。例えば「しっとりした感じのクリームがほしい」「〇〇（既製品）のような使用感のものがほしい」など、大枠のイメージを聞いて、商品のターゲット層をもとに試作品を作ります。実際にその試作品を使ってもらい、意見を聞きながら、さらに改良を加えていくそうです。



新規開発の際にはチームで業務を進めていきます。チームには島根大学出身の先輩もいるそうです。

「仕事はとても楽しいです。もともと化粧品が好きなので、こんなターゲットでこんな使用感のものを作ってくださいと依頼が来ると、よしやるぞ！という気持ちに毎回なります。これは難しいな：と思うこともありますが、同じ部署の先輩方や同期と相談しつつ、いろいろ試行錯誤しながら作ってみることが楽しいです」。化粧品の原料は数多くあり、数パーセントでも配合が変わると使用感が大きく変わってしまうのだとか。「まだまだ知識不足なので、学びながらやっているところです。難しい作業ではありますが、実際に作った試作品がお客さまから高評価

だった時はすごくうれしいですし、それが仕事のやりがいにも繋がっています」と西尾さんは笑います。

将来を見据えた学び 考えて行動する姿勢が 現在の業務にも活かせる

大学時代は理工学系が専門で、有機金属を扱う研究をしていた西尾さん。このテーマ選択も、将来を意識したものだったと振り返ります。「大学3年の時にメイクに夢中になりました。その時にメイクをするので、なりたい自分になれるってすごいなと思い、そこから化粧品に興味がありました」。化学はもとと好きだったものの、その分野の中で有機化学は実は苦手分野だったのだとか。「でも、将来化粧品の業界で仕事をすると考えると、有機の知識は必要だと思い、研究テーマに選びました」。西尾さんが所属していた研究室は、総合理工学部の中では少人数の研究室でした。「研究室には楽しい思い出がいっぱいで、先生も優しくてお父さんのような存在でした。先生の奥様がすごく料理上手で、手作りのパウンドケーキを差入れてくださったったり、冬にはお

でんや鍋を持ってきてくださいました」。アットホームな雰囲気の方で、学びの面では自分で考えて研究を進める、といったメリハリの効いた研究室だったそうです。就職活動の時期になり、かねてから興味があった化粧品のOEM業界を探していたところ、業界ナンバーワンである日本コルマー株式会社に出雲研究所があることを知りました。「インターンシップにも参加したのですが、その時に

出雲研究所を初めて訪れて、実際に試作もさせてもらいました。ここなら製品数も多いので、いろいろなことができるのではないかと期待が膨らみました。それが入社

の決め手になりました」。インターンシップの時は、予め作るものが決まった上での試作でしたが、実際の業務では新規の依頼ごとによいように進めていくかを自分で考えて進める必要があります。「自分で考えて実行する力というのは、大学の研究室で身に付いたと思います」と西尾さんは言います。

資格取得や学びを深め スキルアップを図りながら 新規開発に取り組みたい

入社後、研究部員として製品開

発にあたる傍ら、自身のスキルアップを目指すべく、資格の取得にも積極的に取り組んでいる西尾さん。出雲研究所では危険物を扱うため、危険物取扱者甲種の資格を昨年取得しました。現在は、仕事上、肌の構造のことも知っておきたいとの想いから、化粧品検定1・2級の取得を目指して勉強に取り組んでいるところだ。

今後はもっといろいろな開発に携わって、製品化に繋がっていきたくて西尾さんは意気込みます。「これまで開発された処方レシピの実績がたくさんあるので、現状はそこから選んで作ることも多いですが、まだこの世にない使用感の製品を開発したいと思っています」。西尾さんが開発に携わったこれまででない使用感の製品が店頭で並び目が、遠くない将来、来るかもしれません。



数多くの原料が並ぶ研究所の開発室内。その中から原料を選び、細かく配合を調整しながら試作品を作っていきます。

読者の声

広報しまだい vol.50に寄せられた声をお届けします。

コロナの現在、どのような対策をされているのか、また、学生さんの授業の様子などももう少し詳しく知りたい。

(島根県出雲市・50代女性)

日々進化する研究とても期待しています。

(島根県江津市・40代男性)

せっかく良い取り組みをされているので、SNSで情報発信していることをもう少し前面に出してください。

(島根県出雲市・20代男性)

島大の人たちが色々なことに地域貢献しているから私も見習いたいです。

(島根県出雲市・50代男性)

最新設備 のぞき見!



電気熱機械試験機 (ETMT)

電気で高温にした状態で、金属試験片の引張試験や疲労試験を行います。観察窓が付いており、試験しながら「その場観察」ができる特徴を持っています。英・オックスフォード大学にも同じ機器があり、同型の機器があるのは日本でここだけ!

NEXTAフレンズ 参加者募集!

中高生のみなさんとNEXTAを繋げるネットワーク「NEXTA フレンズ」を立ち上げました。金属やものづくりに興味がある!アカデミックな体験してみたい!世界で活躍したい!そんな皆さんの参加をお待ちしています。

NEXTAってなに?

NEXTAの最新情報をお届け。金属をゆる〜く知るマンガも配信中!



NEXTAをもっと知りたい!

学生や教員の学習や研究の様子、卒業生の活躍など未来を広げる情報はここから!



News 2

高校生のための金属工学実験を実施

2021年12月13日~17日の5日間、「高校生のための金属工学実験2021」を実施しました。この授業は、NEXTAにおける人材育成プロジェクトの一環として行われ、松江市内の高校から合計17名の生徒が参加しました。期間中は毎日17時~18時半まで島根大学内で実習が行われ、生徒たちは4つのテーマごとのグループに分かれて学習しました。

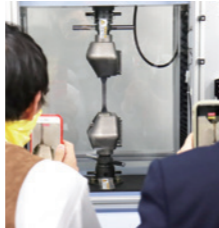
初日の講義からスタートし、実験・まとめ作成・発表までを5日間で行うという盛りだくさんな内容でしたが、高校の授業とは異なる実験やグループ学習に、生徒たちは目を輝かせて取り組んでいました。実習終了後、参加した高校生からは、「実験やポスター作成をして、コミュニケーション力の大切さやプレゼン力を磨くことの価値に気づくことができた」「学習しているけど使い道がよく分からない数学や物理をより身近に感じることができた」などの感想が聞かれました。NEXTAでは、今後も人材育成のための取り組みを引き続き行っていきます。



グループ1

「金属の強さ」

身の回りのいろいろな物に使われている金属。金属が使われる理由は、金属材料特有の「変形」の仕方に秘密があります。このグループでは、金属材料を引っ張る装置を使用して、金属材料の強さや変形について学びました。



グループ2

「合金を作ってみよう」

合金とは純金属に1種類以上の他元素を混ぜた金属材料のこと。合金化された金属は、単体金属とは異なる性質の金属に生まれ変わります。実験では銅と亜鉛の粉末を使い、粉末冶金と呼ばれる手法を用いて合金を作りました。



グループ3



「ジェットエンジンの作動と材料を知ろう」

航空ジェットエンジンや発電所に使われるガスタービン、高温のガスで羽根を回すことでその機能を発揮します。ジェットエンジンの作動原理を学んだうえで、島根大学で設計した小型エンジンを動かす実験などを行いました。

グループ4



「磁石を作ろう」

磁性材料は永久磁石やモーターコア、高周波コイルなどで使用され、現代の科学技術を支えています。実験では、永久磁石の一般的な作り方や仕組みを学ぶため、共沈法によってバリウムフェライト磁石を作りました。



たたら通信

次世代たたら協創センター(NEXTA)の旬な情報をお届けします!

News 1 県内企業との交流の場「NEXTAフォーラム」

NEXTAでは、「NEXTAフォーラム」と題し、県内企業のみなさんとNEXTAの取り組みを相互に理解する機会や、県内外の金属関連の先進的な研究開発事例や最新の動向を紹介いただく勉強会を定期的に行っています。フォーラムを通じた交流により、共同研究等によるイノベーション創出や、社会人の博士課程(自然科学研究科)受け入れ等による中核技術人材の育成など、新たなコラボレーションへの発展を目指しています。

今後のフォーラムの開催予定や最新情報はこちら。ぜひご覧ください。



NEXTAフォーラム

県内企業のみなさんとNEXTAとの交流の場

- 研究内容の定期的な発信、情報交換
- 企業のお取組みの紹介、企業見学会
- 先端研究開発事例を学ぶセミナーなど

共同研究等、社会人の博士課程入学などへの発展



フォーラム pick up >>>>

NEXTAフォーラム 4 マテリアル革命と新規事業展開の可能性 ~航空機の歴史とカーボンニュートラルの将来~

- 開催日: 2021年12月8日
- 講師: 中菱エンジニアリング株式会社 航空宇宙事業部研究試験部 解析・材料試験室 主査 阿部 俊夫氏



2019年度における日本の二酸化炭素排出量のうち、航空が占める割合はわずかに1%ほど。しかし、コロナ後の世界的な航空需要予測の高まりをみても、環境負荷低減のための対策は欠かせません。そのために有効な手段のひとつと言われているのが、航空機の軽量化です。航空会社は、航空機のライフサイクルコストの削減を求めており、軽くて腐食しない複合材は大きなメリットです。軽量化であれば燃費が下がり、複合材化することで整備コストの削減や整備期間を短縮することが可能になります。

今回のフォーラムでは、航空宇宙製品の開発・運用等を支援する中菱エンジニアリング株式会社の阿部氏より、複合材の可能性や脱炭素社会に向けた取り組みを分かりやすく講演いただきました。

NEXTAフォーラム 5 未来のモビリティ 空飛ぶクルマの将来展望 ~社会実装に向けたロードマップと求められる技術~

- 開催日: 2022年1月25日
- 講師: 慶應義塾大学大学院SDM研究所顧問/ 経済産業省「空の移動革命に向けた官民協議会」委員 中野 冠氏



都市の渋滞を避けた通勤や通学、離島や山間部での新しい移動手段、災害時の救急搬送や迅速な物資輸送などの構想を描いて、様々な分野の関係者が「空飛ぶクルマ」の開発を始められています。平成30年には、経済産業省により、空の移動革命に向けたロードマップも策定されました。

「空飛ぶクルマ」を実現するためには、機体技術やインフラ整備、市場性を包括的に統合したシステムデザインが必要です。現状、安全性や社会受容性(騒音、のぞき)、バッテリーの性能向上や自動運転などの技術面、法改正など課題は多岐にわたっています。本フォーラムでは、中野氏に、空飛ぶクルマに対する参加者の率直な疑問にお答えいただくとともに、広い視野に立った業界の状況をご講演いただきました。



島根大学は、平成15年に旧・島根大学と旧・島根医科大学が統合し、令和5年10月に統合20周年を迎えます。また同年4月には工学系の新学部を設置する予定でもあります。島根大学の学生及び教職員の一体感を醸成し、次の時代に向けて価値創造に挑戦し続ける姿勢を広く社会に発信することを目的として、ロゴマークをリニューアルすることになりました。

新ロゴマークは、令和4年2月より約2か月間、デザイン業務を行う企業又は個人から全国公募しました。今後、学内外の委員で構成される選考委員会において第1次審査を行い、候補を3〜4程度に絞ります。7月には、学生及び教職員並びに島大会員による第2次審査（投票）を行い、役員会を経て最終決定し、令和5年4月に公式発表となります。

現島大会員に加え、支援基金に一定額以上ご寄附いただいた方のうち、島大会員に5月末までに新規入会された方には投票用紙をお送りいたします。これからの島根大学を創り上げていく機運と一緒に盛り上げていただくと幸いです。

TOPICS
4
令和5年4月公式発表
島根大学の「ロゴマーク」を
20年ぶりにリニューアルします

島根大学が学内外問わず行っている多彩な活動の中から大学の今がわかる選りすぐりの情報をお伝えします。

しまだいい便り

大学の旬な情報をお届け

TOPICS
1
企業との連携により学生の島根県内定着を目指す
県内企業の寄附による奨学金制度を新設



令和3年12月10日(金)、島根電工株式会社 荒木恭司代表取締役社長、山陰中央テレビジョン放送株式会社 田部長右衛門代表取締役社長、株式会社オネスト 石碕修二代取締役社長、本学服部泰直学長ほか関係者が出席し、島根電工グループ、TSKグループ及び株式会社オネスト並びに国立大学法人島根大学の連携協力に関する協定の締結式を行いました。

この協定は、各社と大学が緊密な連携のもと、島根県の将来を支えていく意欲を持つ優秀な人材をともに育成するとともに、県内への定着促進に寄与することを目的としており、島根電工グループ、TSKグループ及び株式会社オネスト様からの寄附金を原資として、島根県内就職を目指す学生へ支給する「県内定着奨学金」を新たに創設します。

協定締結式に出席した企業の代表からは、「島根県で就職を希望する学生を支援することにより、島根大学で学んだ優秀な人材が地元に残り、地元でイノベーションを起こすことに期待している」との言葉がありました。また、服部学長より「島根県にある国立大学として地域貢献は大きなミッションである。優秀な人材を育て、島根県に貢献することを大きな使命と捉え、人材育成をしたい。また、これをきっかけに学生に島根をもっと知ってもらい、島根に定着してもらいたい」との発言がありました。

TOPICS
2
島大生と学長の意見交換会を実施
大学をよくするためのアイデアを提案



令和4年2月3日(木)、島大生と学長の意見交換会を行いました。学生からは「地域と密着したプロジェクトを立ち上げる」「空き家をリノベーションし、学生と地域が交流できるカフェを作る」「大学祭を県内各地で開催する」など様々なアイデアが提案されました。学長からは「今あるアイデアのタネをさらに芽吹かせてほしい。大学としても、可能な限りサポートしていきたい」と取り組みへの期待と支援が述べられました。

TOPICS
3
生物資源科学部の江角智也准教授が共同研究
ソメイヨシノの開花予測技術を開発



生物資源科学部 江角智也准教授は、かずさDNA研究所、京都府立大学との共同研究で、遺伝子の発現をPCR法で解析することでソメイヨシノの開花時期を予測する新しい技術を開発しました。本研究成果により、ソメイヨシノの開花日の予測精度を向上させ、お花見の計画やイベント運営の最適化が行えるようになるほか、果樹の栽培管理を計画的に行うことが可能となり、安定して高品質な果実を得ることができるようになります。

WE LOVE SUN-IN!

楽しい街づくり
に貢献します

株式会社メリット TEL.0852-23-2230

地域創造企業 SHOWA

株式会社昭和測量設計事務所

TEL (0856) 23-6728 FAX 23-6573

島根大学 神在の里

島根大学生協同組合

TEL: 0852-32-6242

NSK 先進のIT技術で未来を拓く。

日本システム開発株式会社

TEL: 0852-28-7175

広告募集

島根大学企画広報課

TEL: 0852-32-6603

しろうさぎ

患者さん向けの「役に立つ」情報満載!

WEB上でも読めます。詳しくはこちら▶

読者の声 Voice

広報しまだいい vol.50に寄せられた声をお届けします。

学部学科の様子や卒業後の進路など、子の県内進学に参考となる情報も載せてほしいです。
(島根県浜田市・40代男性)

学長対談の中での「地方創生」という言葉に、大変惹かれるものを感じました。
(広島県福山市・50代男性)

出雲
キャンパス

医学部剣道部



「直心」を旗印に 一人ひとりがひたむきに励む

剣道初心者が多く大学から気軽に剣道を始めやすい環境です。剣道経験の長い人や剣道の昇段を目指す人、マネージャーとして剣士をサポートする人、なかには過去に全国大会出場経験のある人までおり、各部門が自分のペースで剣道を楽しめるのが魅力です。残念ながら現在は対外試合への出場機会はありませんが、今後の大会開催を祈りつつ、感染防止対策を実施しながら部員一丸となって稽古に励んでいます。

松江
キャンパス

弾き語りサークル スナフキン



スナフキンで楽しい音楽ライブを送ってみませんか？

私たちは、アコースティックギターを中心に、ピアノ・カホン・グロッケンなどさまざまな楽器を使って弾き語りをするサークルです。季節ごとの定期ライブをはじめ、新年会や合宿などたくさんの活動を行っています。大学に入ってから楽器を始めたという人も多く在籍しているので、音楽が好きの方はどなたでも大歓迎です。YouTubeに過去のライブ動画もあるのでぜひチェックしてみてください。

Shimadai's Circle

しまだい CLUB & CIRCLE INFORMATION

各キャンパスでそれぞれの特色を生かして活動する島大生。運動系や文化系はもちろん、大学を飛び出して活動する団体もあり、活躍の幅は様々です。そんな各団体について、実際の活動内容を交えて紹介します。

松江
キャンパス

硬式野球部



一部昇格を目標に 一致団結する

硬式野球部は、リーグ、新人戦に向け日々練習に励んでいます。春季リーグ、秋季リーグで満足のいく成績を残すことができず悔しい思いをしました。この悔しさをばねに、次のリーグに向け全員野球で取り組んでいます。「雲外蒼天」チーム全体で同じ方向を向き、より一層士気を高めて努力を続けていきます。これからは1・2年生中心のチームになりますが、すぐに結果が出なくても、一球入魂の精神で挑戦し続けていきたいと思っています。

学生の視点で
島根大学の魅力 を発信！



#大きな虹
#教養棟2号館から撮影



#鮮やかな紅葉
#松江キャンパス

Instagramでは、学生目線で島大生の
キャンパスライフを紹介しています。

Instagram



地域に密着して
生活する学生に
インタビュー！

非公認サークル「soup」は、米作りや夏野菜の収穫等々、地域の方々から助言をもらいながら意欲的に活動しているサークルです。今回はそのメンバーの中で、自分たちでDIYした古民家に住みながら活動する布村甲斐さん(教育学部)、中村諒一さん・永田清正さん(生物資源科学部)にインタビューしました。取材当日は地域の方と実際に畑で農作業をする様子も見学させていただき、活動を始めたきっかけから地域との交流まで、インタビューは1時間にも及びました。また、地域の方の生の声を聴くことができたことも貴重な体験でした。

インタビュー全編は
こちらからご覧ください



古民家の前で



地域の方と農作業

学生 広報サポーター

レポート



島根大学では、学生の視点や発想を生かしながら、ボランティアで広報活動を行う「学生広報サポーター」制度を設けています。学生広報サポーターの記事の一部を紹介します。

山陰ツーリズム 人材育成塾 塾生が大森町を視察

島根大学では、観光によって地方創生を実践できる人材の育成を目的に、「山陰ツーリズム人材育成塾」を開講しています。塾生は、主に観光ビジネスや地域活性化に取り組もうとしている社会人です。

12月4日、カリキュラムの一環で大田市大森町の視察が行われました。大森町の町並みを散策した後、武家屋敷を改修した宿・他郷阿部家にて、株式会社石見銀山生活文化研究所社長の松場登美さんの講演を聞きました。講演後に行われたワークショップでは、視察で得た観光事業と観光地域づくりの「特徴」を挙げていき、それぞれの項目に合わせて分類するグループワークを行いました。

今回の視察では、塾生の皆さんは終始笑顔で、新たな気づきを得られることを心から楽しんでおられる様子でした。



大田市大森町の視察



グループワーク

信頼の実績・高品位ソフトウェア開発

SOFT KAIHATSU
Everything begins with one will.

株式会社ソフト開発

東京本社：東京都町田市鶴間 TEL:042-795-7613
広島オフィス：広島市安佐南区西原 TEL:082-850-0877

希望に満ちた
未来ある若人を
応援します

QRコード

http://www.softkaihatsu.co.jp/

人と木を結ぶ
木造住宅の建築に欠かせない
合板の製造で、
国内シェア約30%を持っています。

NISSHIN
松江・浜田・境港を中心に
日本一のメーカーをめざしています。

日新ホールディングス株式会社
〒690-0887 島根県松江市殿町 383 山陰中央ビル 4F
TEL 0852-33-7830
NISSHIN GROUP WEBSITE
https://www.nisshin.gr.jp

QRコード

～よりよい環境づくりを目指して～

株式会社 **コスモ建設コンサルタント**
土木設計・測量・地質調査・補償コンサルタント
島根県出雲市斐川町荘原 2226-1
TEL 0853-72-1171

http://cosmoc.jp/

QRコード

GLOBAL

高機能治具で
モノづくり支援

しまだいOBも活躍中!

株式会社グローバル 出雲工場
出雲市小境町1700番8 TEL.0853-67-9030
http://www.gl-b.co.jp/

QRコード

文科省・総務省所管の通信制大学

放送大学で学びの機会を

- 放送大学で修得した単位が島根大学の単位として認められる「単位互換制度」が利用できます
- 関心分野や専門分野など1科目から受講できます
- 学習はテレビ(BS放送)、インターネットを通じてマイペースで
- 入学のチャンスは 年2回(4月入学、10月入学)

放送大学 島根学習センター
〒690-0061 松江市白湯本町43(スティックビル4F)
Tel.0852-28-5500 Fax.0852-28-1800
www.ouj.ac.jp

QRコード

島根大学支援基金より

島根大学支援基金では、皆さまからいただいたご寄附を地域や世界で活躍する人材育成のために活用させていただいております。何卒ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

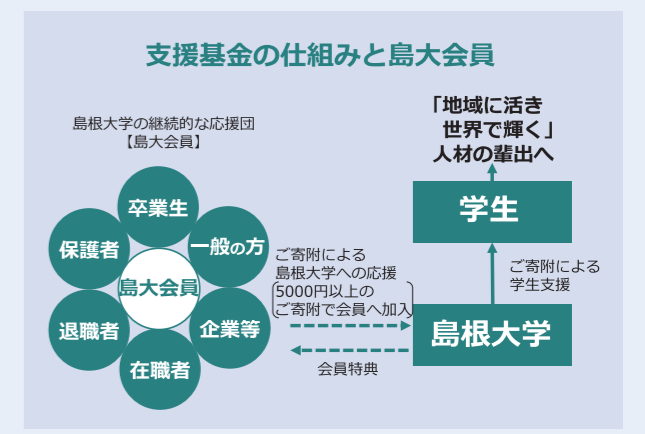
「島大会員」制度のご案内

本学では、支援基金への寄附を通じて本学を応援して下さる皆様の会員制度である「島大会員」制度を設け、会員の皆様には「島大オリジナルグッズの贈呈」「交流イベントへの参加」等の特典をご用意しています。

【加入方法】
支援基金へ5,000円以上のご寄附でどなたでもご加入(永年会員)いただけます。

【会員特典】
年間寄附額に応じて、「イベントの案内」、「広報誌送付」、「島大カレンダー贈呈」、「島大オリジナルグッズ贈呈」の特典を受けることができます。

【島大会員のつどい】
会員の皆様への感謝の気持ちを示すとともに、本学と会員との交流を図ることを目的に「島大会員のつどい」を開催しています。



支援基金についての詳細は支援基金HPをご覧ください。支援基金パンフレットをご請求ください。支援基金へご支援いただける場合は、支援基金HPから手続きいただくか、支援基金パンフレットよりお願いいたします。なお、パンフレットはお電話でのご請求も承っております。

お問い合わせ先 島根大学総務課支援基金担当
TEL 0852-32-6015
Mail sienkk@office.shimane-u.ac.jp
https://www.fund.shimane-u.ac.jp/

支援基金HP

QRコード

島根大学支援基金 寄附者一覧

島根大学支援基金は、皆さまのご寄附を学生支援等に活用させていただく仕組みです。パンフレットは上記ホームページにも掲載しておりますが、郵送もいたしますので、お問い合わせください。

※(単回)令和3年10月1日～令和3年12月31日に5千円以上のご寄附をいただいた皆さま(五十音順・敬称略)
※(継続)令和3年度にご寄附をいただいた皆さまのご芳名を、令和4年7月号に掲載させていただきます。

ご協力ありがとうございました。

冠寄附	島根大学法文学部同窓会	法文学部同窓会基金(経済的困窮学生の修学支援)
法人等からのご寄附(単回)	石見銀山建設株式会社	教職員共済生活協同組合 協同組合島根県鐵工会 島根大学法文学部同窓会 社会保険労務士法人 村松事務所
個人からのご寄附(単回)	青柳和仁 秋山長夫 新井清市 飯塚一正 石田博之 石橋直樹 伊豆裕典 猪谷大輔 伊藤一孝 意東純子 稲垣卓司 今井睦子 岩田高明 内久保晋一郎 江島和代 大谷 浩 大畑俊正 大山浩平 沖貝 浩 角森洋子 梶田康洋 加藤巡一 加藤寿朗 門脇和也 川路澄人 河原浩一郎 黒田弘之 河本拓也 小谷美保 後藤文子 小森正人 藤田万州生 小山正人 近藤揚輔 佐藤利夫 佐藤直也 佐貫文紀 佐山 一 椎名浩昭 地阪光生 島津欣央 車野悦郎 菅井達郎 杉原宏教 杉山寿志 角 拓哉 高取謙次 高橋 聖 谷口 隆 藤後耕一 友口 勝 中川哲也 中筋優衣 永田まち子 中谷通翔 中山さちこ 西尾浩治 野田 寛 橋本真澄 蓮岡法暉 服部泰直 原 恭子 久富公資 廣兼 敦 吹金原 雅 福田洋二 福岡栄子 福岡龍一 藤井浩基 藤田貴彦 藤本正昭 古野 毅 保田尚海 本田光宝 村上正和 森口基十雄 森田芳治 森広 茂 門城祐司 安原 伸 山口 清 山根裕幸 山本節子 山本武司 山本秀美 山本弘正 横田正幸 吉木 茂 吉松純昭 吉見 顕 和田 孝	

※ご寄附をいただいた皆さまの中で、「HP等への掲載を希望しない」とされた方は、掲載しておりません。

編集後記

吹く風も柔らかな季節となりました。

今号の巻頭特集では、日ごろの学びや専門的な研究を活かして、それぞれ異なるフィールドで活躍する学生たちを取り上げました。感染症の拡大により希望どおりに活動できないことも多々あったようですが、制限された状況下でも創意工夫して新たなものを生み出そうとする姿勢に頼もしさを感じました。引き続き、学内のみならず、学外の様々な場所で活躍する学生たちと共に応援いただけますと幸いです。

最後に、本学では3月5日に「古代出雲文化フォーラム」をオンライン開催しました。当日の様子は、動画サイトYouTube内「島根大学チャンネル」において6月末まで配信しています。ぜひご覧ください。

投稿のお願い

「広報しまだい」は、島根大学と地域の方々との相互理解を大きな目的としています。島根大学から地域に情報を発信してほしいこと、地域の方々からの島根大学に関する話題、島根大学に対する要望、その他ご意見、ご質問などをお気軽にお寄せください。ご投稿お待ちしております。

投稿先

〒690-8504
松江市西川津町1060
島根大学 企画広報課
TEL.0852-32-6603
FAX.0852-32-6630

E-mail gad-koho@office.shimane-u.ac.jp
HP https://www.shimane-u.ac.jp

PRESENT

ご意見をいただいた皆さまの中から抽選で5名様に、島大農場で収穫・加工した「ブルーベリージャム」「ブルーベリージャム」各1瓶をセットにしてプレゼントします。
※当選者のお知らせは発送をもって代えさせていただきます。
※応募締切/令和4年6月3日(金)必着

島根大学の 公式SNSのご紹介

島根大学が発信している
公式SNSアカウントをご紹介します。
大学をもっと身近に感じていただける
内容が盛りだくさんです。
ぜひ、ご覧ください！

大学の
最新情報を
発信！！



Facebook

島根大学の「今」を広く皆さんにお知らせしています。

ここから
Check!



Twitter

島根大学の最新ニュースや日々の
できごとについて呟いています。

ここから
Check!



Instagram

大学の広報活動をサポートする
「学生広報サポーター」が、学生目
線で大学の魅力を紹介しています。

ここから
Check!



LINE

高校生・受験生・地域の方々に役
立つ情報を定期的にお届けします。

友達追加!



YouTube

リアルな大学生活を、学生や教員
の声を通じて発信しています。

ここから
Check!



島大をもっと
深く知るなら…

Web
サイトへ! >>>

